

平成25年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	農家とつながる生ごみ堆肥化、資源活用事業	[1]
申請団体	ダンボールコンポスト古淵・鶴野森	
事業目的等	<p>生ごみを焼却するのではなく堆肥材として資源化することでごみの減量を図る。 地域住民と農家との協働で生ごみの地域内循環を広め、畑を畑として残すことで自然環境が保たれ、かつ都市部の住宅に囲まれた畑は防災上必要な場所ともなる。 また安全で安心な作物がとれ、それを地域で消費する地産地消の取り組みをし資源循環の素晴らしさを伝える。</p>	
交付決定日	平成25年 5月24日	
交付決定金額	140,000 円	(全体事業費 140,000 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加家庭での生ごみ堆肥化(5月から翌3月)を行い、堆肥場へ持ち込み混ぜ込み作業を6回実施。 ダンボールコンポスト作り講座を実施(9月)及び生ごみリサイクル講座を実施(2月) <p>農家協力者 1軒</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門機関で生ごみ堆肥の放射線測定分析を行う。 <p>自己評価</p> <p>この事業の目的としている生ごみを焼却せず資源化することができ、ごみの減量が図られた。生ごみ堆肥で作った玉葱を収穫、消費することができましたが、堆肥の量が少ないため他の野菜の栽培までは出来なかったため、もっと事業参加者を増やしてごみの減量、地産地消の取り組みとなる地域内循環の環を広げていきたい。</p>	
市評価	<ul style="list-style-type: none"> 講座参加者の5名は、生ごみ堆肥化への興味は示すもののできた堆肥を農家へ収めるため、自分で使えないという理由からか会員の増員にはつながらなかった。 会員の口で直接周知啓発し、今年度6名の会員が増加した。現在の会員数は27名。 今後もっと地区へ波及できる工夫を行い、堆肥量を増し、協力農家(現在1軒)を増やして事業が更に広がるよう努めていただきたい。 	
備考		

平成25年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	木もれびの森の落ち葉の資源循環プロジェクト事業 [2]
申請団体	環境ステップアップの会 & NPO法人相模原こもれび
事業目的等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち葉を腐葉土にし、資源として地域内で循環できれば、落ち葉を焼却することなく有効利用できます。 ・ 腐葉土は畑やベランダ菜園等でも利用でき、生ごみ堆肥を作ることも出来ます。 ・ 腐葉土の使い方を多くの人に提供することによって、生ごみの焼却が減り、ごみの排出削減も図れます。 ・ 環境の保護・保全に関心を持つ人が増えることによって、木もれびの森の保全活動にも寄与します。
交付決定日	平成25年 5月24日
交付決定金額	96,000 円 (全体事業費 96,000 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木もれびの森の放射線量測定(6/24) ・ 腐葉土の切り返し作業(7/29) ・ 腐葉土(平成23年度産)の袋づめ作業(10/14) ・ 「木もれびの森で遊ぼうよ」のイベント(南区役所共催)にてパネル展示、腐葉土(平成23年度産)の配布(10/19) ・ 落ち葉集めと腐葉土の作り方講習会(12/9、1/27) ・ 大野中公民館まつり、大野台公民館まつりで会の活動発表(3/1・2、3/8・9) ・ 腐葉土の放射性セシウムの測定 <p>自己評価</p> <p>今年度は、延べ60人の参加者があり、木もれびの森の保全にも役立ちました。また、腐葉土の作り方講習会も行い、できた腐葉土を配布して、腐葉土を使ったダンボールコンポストを体験してもらいました。家庭の生ごみをダンボールコンポストで堆肥にして活用する講座を2回開催し、ごみの焼却を減らすことができました。森を保全し、焼却するごみを削減して、地球温暖化防止にも役立ちました。</p>
市 評 価	<p>落ち葉を腐葉土にし、資源として地域内で資源循環をする目的は達成されている。また、腐葉土の放射線量は測定結果から安全であることが確認できた。積極的に堆肥作りに取り組み、平成24年度は、約20kgの網袋10袋の腐葉土ができた。平成25年度は、15ℓのごみ袋で45袋の腐葉土を配布できた。今後は、腐葉土の使い方をより一層多くの人に提供できるよう努められたい。</p>
備 考	

平成25年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	高齢者家庭支援事業	[3]
申請団体	ライフサポート“ありがとうの会”	
事業目的等	当グリーンハイツ団地は、今後一段と高齢化が進むことが確実で支援を要する家庭が増加することから、当会では、介護保険等行政の支援が及ぶ前の段階や行政の支援が必要な場合に、それを補完する形で高齢者への支援や見守りを行う。	
交付決定日	平成25年 5月24日	
交付決定金額	120,000 円	(全体事業費 370,197 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <p>高齢者家庭等への</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災報知機の取付。ワイヤレスチャイムの取付。 ・ 家具転倒防止工事等。 ・ 一般ごみ・粗大ごみの処理。 ・ 専用庭の手入れ。 ・ 電球の交換 ほか。 ・ 日常生活の手助け作業の実施。 <p>支援活動を通して自治会への参加の必要性をPRし、加入促進お声かけを行った。</p> <p>自己評価</p> <p>支援事業も順調に軌道にのりつつあり、会員皆様には喜んでいただき、先ずは成功かと思っております。また、会員・協力員ほかの意見を汲み取り、更に充実した内容となるように努力してまいります。今後は、更に高齢化が進むなか自治会協賛活動等で、賛同会員・協力者を募り、支援活動の円滑な運営に供したい。</p>	
市 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的である高齢者等への支援や見守り活動の中で、支援内容が充実し、高齢者に喜ばれている様子である。協力員や会員相互の親睦も深められ、安全で安心な生活が一層推進されていると伺える。 ・ 自治会加入促進の啓発活動も徐々に理解が得られているようで、引き続き自治会との協力体制で、積極的に取り組んでいただきたい。 ・ 今後は、支援する側の協力者と会員の充実を図り、団体活動が自立できるよう取り組むことを期待する。 	
備 考		

平成25年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	「木もれびの森」もーっと知っとこ！事業 [4]
申請団体	「木もれびの森」もーっと知っとこ！プロジェクトチーム
事業目的等	近隣小・中学校との連携により「木もれびの森」を環境や自然教育の場として活用し、写真展や自然観察や体験学習を通して、自然に触れ、森への関心を高め、身近な緑を大切にすることを育むとともに、次世代を担う人材を育成する。
交付決定日	平成25年 7月31日
交付決定金額	200,000 円 (全体事業費 424,406 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣小・中学校での写真展開催(大野小、若松小、大沼小、鹿島台小、共和小、大野台小、鶴野森中、大野南中、大野台中) ・ 近隣公民館での写真展開催(大野中、大野台、大沼) ・ 木もれびの森観察記録発行(35～50号) ・ 近隣小学校の郊外活動、PTA主催の親子交流会サポート ・ 大野小学校開校100周年記念事業「奇跡」100年出版へ写真多数提供 ・ 掲示板追加設置 ・ 卓上式カレンダー作成配布(70個) <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大野中地区の小・中学校全てで写真展を開催できたことは大いに評価できる。今後も範囲を拡大し、子ども達に木もれびの森への関心を更に高めていく ・ 観察記録は今年度50号発行を達成 ・ 小学校の校外学習・総合の時間を積極的にサポート
市 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的である「近隣小・中学校との連携による木もれびの森の環境や自然を学ぶ教育の場として活用すること」の実践の学校数を昨年度より、5校増やすなど更に推進している。今後、大野台地区で残された大野台中央小学校に実践活動が広まることを期待する。 ・ 小学校の校外学習・総合の時間を積極的に支援されたことは評価できる。
備 考	

平成25年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	大野中！地域力パワーUP事業 【 5 】
申請団体	大野中地区自治会連合会
事業目的等	多くの区民に自治会活動の理解と未加入者の加入促進を行い、地域の活性化を図る。
交付決定日	平成25年 7月31日
交付決定金額	250,000 円 （全体事業費 250,000 円）
団体実績報告	<p style="text-align: center;">事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動の目的や活動内容を広く区民にPRできた。 ・自治会加入促進を「ふるさとまつり」にてブースを設けて自治会活動等のパネルを展示し、アンケートの取り組みも行った。 ・イトーヨーカ堂古淵店のお祭り広場をお借りして、地域のサークルと連携し自治会加入促進活動を実施した。地区社協もキャラクターの「にこまる」と共に活動に参加した。 <p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>4年目の活動ではあったが、自治会の活動をPRするには大変効果的な活動であったと思う。地域の大型店の協力や地域自治会サークルの参加などとても有効な手段であるが、今後とも同様の協力が得られるかは大きな課題である。</p>
市 評 価	<p>今回で4年目の活動ではあった。地域の大型店の協力や地域自治会サークル、地区社協のキャラクターの「にこまる」の参加を得て充実した内容となった。ただし、今後とも同様の協力が得られるかは大きな課題である。自治会パネルクイズや相談コーナーは加入につなげる効果的な手法と思われる。今後は、開催する加入イベント内容の精査を行って、更に自治会加入の充実を図られたい。</p>
備 考	

平成25年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	青色防犯パトロール事業	[6]
申請団体	大野中地区防犯協会	
事業目的等	大野中地区の防犯活動（青色防犯パトロール車によるパトロール活動）を行うことにより、安全で安心して暮らせるまちづくりに貢献する。	
交付決定日	平成25年 7月31日	
交付決定金額	141,000 円	（全体事業費 141,000 円）
団体実績報告	<p>事業実績</p> <p>8月から大野中地区、大沼地区、大野台地区の3つの地区ごとに、月3回の青色防犯パトロールを実施した。</p> <p>自己評価</p> <p>60名近い青色パトロール協力員の協力のもとで実施することができ、地域の防犯活動に大いに貢献できていると思われる。なお課題としては青パト乗車中の事故の問題とパトロールカーを南区役所から借りて返却する手段については改善の余地がある。</p>	
市評価	<p>地区の「青色パトロール協力員」(約60人)により、期間中、毎週1回、午前、午後の2回地区内を決められたコースで青色防犯パトロール車によるパトロール活動を実施した。「空き巣、ひったくり、振り込め詐欺に注意」、「春・秋・年末年始の全国交通安全」等10種類程度の広報テープを作成し、その作成したテープを流しながら青色防犯パトロール車によるパトロール活動を行ない、安全で安心して暮らせるまちづくりに貢献することができた。今後は、青パト乗車中の事故の問題とパトロールカーを南区役所から借りて返却する手段についての改善を期待する。</p>	
備考		

平成25年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	大野中情報発信プロジェクト事業 【 7】
申請団体	大野中情報発信プロジェクト
事業目的等	大野中地区における地域団体の活動等に係る情報を積極的に紹介することにより、地域住民に各団体の活動への理解を深めてもらうとともに、活動へ積極的参加を促すことを目的とする。
交付決定日	平成25年 11月18日
交付決定金額	400,000 円 （全体事業費 460,600 円）
団体実績報告	<p>事業実績 大野中地区内の団体(6団体)を紹介するDVDを作成し、まちづくりセンター内に設置したモニターで各団体のDVDを流し、市民へ情報発信ができた。まちづくりセンターでは置き場所を検討したがラックなどを置く場所がなかったため、天井からの吊り下げ式とした。</p> <p>自己評価 各団体のDVD作製の期間が短かったが、出来上がったDVDは各団体の特色が出ていて良いものができた。また市民により良い情報発信ができ、今後の反応を期待している。</p>
市 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・大野中地区にある地域団体(6団体)が各々の団体の活動内容等をDVD化した。 ・まちづくりセンター内に設置した液晶モニターに作製したDVDを流し、まちづくりセンターに来所した方に見ていただき、地域の魅力を知ってもらい自治会加入や地域参加への意識を高めることができた。なお、作成されたDVDの放映場所が限られた場所となっており、今後このDVDをより多くの地域住民に視聴してもらう等の活用方法が課題となる。
備 考	

平成25年度 大野中地区地域活性化事業交付金決定事業の概要と評価

申請事業名	消防団活動活性化地域啓発事業	[8]
申請団体	相模原市消防団南方面隊第三分団	
事業目的等	広く消防団活動の公報を行い、活動への理解を深め、団員募集をはかり、地域と連携し、より実効性の高い防災活動を行うこと。	
交付決定日	平成26年 1月31日	
交付決定金額	154,000 円	(全体事業費 154,200 円)
団体実績報告	<p>事業実績</p> <p>広く消防団活動の広報を行い、活動への理解を深め、団員募集をはかり、地域密着型で、より実効性の高い防災活動を行うため、地域ごとの個別の消防団名(「大沼消防団」「鵜野森消防団」「古淵消防団」)が入ったのぼり旗各20本(計60本)を作成した。こののぼり旗を、消防団詰所や地域の主だった場所に立てるなど、日頃からの活動アピール等に活用し、またイベント等では地元消防団であること等を広報・PRし、地域防災啓発活動と消防団活動への理解を深めるために活用した。</p> <p>自己評価</p> <p>新規団員の獲得等の成果はまだ見られない状態だが、今後こうした個々の消防団名の入ったのぼり旗を活用し、地域密着での活動を進めることができるようになったことは高く評価している。</p>	
市評価	消防団員の高齢化や担い手不足といった地域課題解消のために、団名入りのぼり旗を用いた啓発活動を実施した。新規団員獲得といった直接的な成果については、事業年度終了時点において得られていないものの、地域住民に対する消防団活動の周知、防災意識向上といった目に見えない効果は、着実に地区内に根付いているものと評価できる。	
備考		